

科目名	専門分野				ディプロマ・ポリシー(DP)	DP3 DP4			
	基礎看護学				担当教員	専任教員			
	観察技術								
履修学年	1年	履修学期	前期	単位数	1	時間数	3 4		
授業目標	1. 看護師が行うアセスメントに必要な情報源や情報の種類、観察の方法がわかる 2. ヘルスアセスメントとは何か理解できる 3. バイタルサインと内部環境の恒常性の関係が解る 4. 解剖生理の知識を活かし「生きている」を守るフィジカルアセスメントができる 5. 解剖生理の知識を活かし「生きていく」ためのフィジカルアセスメントができる 6. 実施する観察技術が、どのように対象へ影響を与えるのかが解る 7. ナイチンゲールが述べる観察の重要性について考えを述べるができる								
回	学習内容				方法	担当教員			
1	1) 看護師が行う観察 ・主観的情報、客観的情報、2つの観察法、臨床判断、推論				講義	専任教員			
2	2) 看護におけるヘルスアセスメント (1)ヘルスアセスメントとは (2)フィジカルイグザミネーションを活用した実践 ・腹部観察の手順と活用法の留意点：腹膜炎、虫垂炎、便秘				講義 演習				
3	3) 生命の兆候を捉える (恒常性維持、バイタルサインズで得られた情報の意味)				講義				
4 5	4) 「恒常性維持のための流通機構」のアセスメントに関連する情報 (1)心臓の位置、動脈系・静脈系の循環不全、心音 ・動脈硬化、心筋梗塞、心不全、循環不全(動脈閉塞、静脈瘤) (2)「恒常性維持のための流通機構」のアセスメント技術を実践する ・心尖拍動、頸静脈・表在動脈触知、ホーマンズ徴候、浮腫、 心音聴取、異常心音(事例：息苦しい、胸痛、下肢浮腫、動悸)				講義 演習				
6 7	5) 「息をする」のアセスメントに関連する情報 (1)呼吸不全、呼吸困難評価ツール、呼吸音、貧血 (2)「息をする」のアセスメント技術を実践する ・胸郭の視診・触診、正常呼吸音聴取、異常呼吸音聴取				講義 演習				
8 9	6) 「神経調節」・「動く」のアセスメントに関連する情報 (1)中枢神経 (2)末梢神経 (3)筋・骨・関節 (4)「神経調節」・「動く」のアセスメント技術を実践する (感覚神経の観察法、パレー徴候、MMT観察法、関節可動域計測)				講義 演習				
10	7) 「食べる」のアセスメントに関連する情報と観察技術 ・口腔、歯、腹部、食行動に関連する機能				講義 演習				
11	8) 「排泄」のアセスメントに関連する情報と観察技術 (腎機能、尿管・膀胱、失禁(脳・脊髄)、尿道の症状、排泄行動)				講義 演習				
12	9) 「コミュニケーション」のアセスメントに関連する情報と観察技術 ・視力、聴力、発声、認知、高次脳機能・発達(子ども、高齢者)				講義 演習				
13	10) 「お風呂に入る」のアセスメントに関連する情報 ・皮膚、頭皮・毛髪、爪、入浴可能と判断できる情報				講義				
14・15	パフォーマンス課題				演習				
16	パフォーマンス課題発表				演習				
17	看護師が行う観察の意義をナイチンゲールの言葉から考える				講義				
評価規準 評価方法	パフォーマンス評価・筆記試験 100点								
テキストおよび 参考文献	専門分野 基礎看護学[1] 基礎看護技術Ⅰ(医学書院) 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅱ(医学書院) 第4版 看護形態機能学(日本看護協会出版会) 実践を創る 新・看護学原論(現代社) 新版 ナイチンゲール看護論・入門(現代社)								
履修上の注 意点	観察技術の科目履修は、基礎看護学実習に行く条件である。								